

仙台市立東六郷小学校

2014年 12月 8日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

(1) 「子どもの命は守られたのか」 教見隆生編著(2011)かもがわ出版

【場所】

海岸から約2kmの位置にある。
住所:宮城県仙台市若林区種次山王 前2-6
※現在は六郷中学校を間借りして再開。



【東日本大震災による被害】

津波により校舎1階部分が浸水。

【震災当日の様子】

地震が起こった時、高学年は6時間目の授業中で、低学年は授業は終わっていたが4時半まで学校にいてよいことになっていたため、児童は全員学校にいた。

地震後、校庭に避難していたが、津波の情報が入ったことから近隣住民が学校に避難してきたため、寒いことや地震で校舎の窓が割れることを考慮して、避難してきた住民と児童を体育館に誘導した。体育館での居場所を整えていたが、「津波が来た!」という声が上がリ、「体育館ではなく校舎の2階に上がれ」という指示が出た。すぐに津波が学校に到達し、ぎりぎり避難が間に合った人もいたが一部流されてしまった人もいた。児童は全員助かった。(1)

【調査して言えること】

海からは約2km離れた位置にあるが、学校の標高が約2mと低いため、地震の際には津波を警戒する必要がある学校である。

学校の周囲には高台が無く、高い建物もほとんどないため、学校外への避難は難しい。今回の津波で浸水していない、学校の標高よりもやや高い地域から約2km離れている。また、校舎は2階建てなので、津波の際に校舎に避難しても安心できるほど高い場所ではない。

周囲に高い建物がないため、現在でも校舎は津波の際の緊急一時避難場所に指定されており利用されている。



東から見た学校(2014/11/1撮影)



学校の東側にある緊急一時避難場所の看板(2014/11/1撮影)